

岡本佳苗さんがエッセー最優秀 絵手紙部門は市岡哲夫さんに

日遊協主催「第2回パチンコ・パチスロ エッセー・絵手紙コンクール」の最終審査委員会が5月

9日、日遊協本部会議室で開かれた。エッセーの最優秀賞には神戸市の会社員、岡本佳苗さん(41)の



エッセー・絵手紙の最終審査で討議する委員たち

「祖母との絆」

人との絆」(一

般の部)が、

絵手紙の最優

秀賞には京都

府亀岡市、無

職、市岡哲夫

さん(60)の作

品(一般の部)

がそれぞれ選

ばれた。さら

に、エッセー

と絵手紙の優

秀賞各2編、

佳作各10編が

決まった。最

優秀賞の2人

第2回パチンコ・パチスロ
「エッセー・絵手紙」コンクール

入賞者

エッセー

◆最優秀賞 (1編：旅行券30万円分)

岡本佳苗(41) (会社員) 兵庫県神戸市

「祖母との絆、人との絆」

◆優秀賞 (2編：旅行券10万円分)

【日本遊技機工業組合優秀賞】

伊藤大佑(22) (アマミューズメント業) 神奈川県茅ヶ崎市

「1粒のパチンコ玉が作る絆」

【日本電動式遊技機工業協同組合優秀賞】

山野和哉(25) (株)プロバ

「大好き！私のホール、私の街」

◆佳作 (10編：商品券2万円分)

海野兼夫(61) (印刷会社勤務) 埼玉県狭山市

堀江寛子(35) (主婦) 岐阜県高山市

伊藤弘樹(44) (会社員) 愛知県名古屋

古賀雅裕(36) (警備員) 佐賀県佐賀市



第9回パチンコ・パチスロ
「エッセー・絵手紙」コンクール
最終審査委員会委員（敬称略）

◇審査委員長
深谷 友尋（日遊協会長）

◇業界委員
原田 實（全日遊連理事長）
市原 高明（日工組理事長）
里見 治（日電協理事長）
中村 昌勇（全商協会長）
伊豆 正則（回胴遊協理事長）
木原 一雄（自工会理事長）

◇日遊協委員
庄司 孝輝（担当副会長）
松谷 明良（明日の協会創造室長）
福山 裕治（広報委員会委員長）

◇事務局
篠原 弘志（専務理事）
伊東 慎吾（常務理事）

まとめて発表される。

は、6月7日の日遊協第23回通常総会に招かれて表彰される。入賞した全作品は日遊協ホームページに掲載されるほか、作品集として

厳格だった祖母と その日から会話が

エッセーで最優秀賞に選ばれた岡本さんの作品は、少女時代、家庭の事情で毎日の夕食が厳格な祖母と2人きりで気詰まりだったこと、ある日、祖母のささやかな楽しみがパチンコと知り、それ以来パチンコの話題で祖母との会話ははずんだこと、大人になって東京に就職する直前、祖母が不慮の事故で亡くなりパチンコの話題を避けるようになったこと、10数年後に帰郷してふとパチンコ店に入り初心者として打っていたら隣の席の小母さんと店員のおじいさんが

弓場貴子（35）（主婦）鹿児島県霧島市
大平大輔（31）（株）正栄プロジェクト
大森克弥（37）（三宝商事株）
神崎正美（31）（三宝商事株）
鈴木政高（37）（サンキョー株）
青木惇（24）（株）安田屋

絵手紙

◆最優秀賞（1編：旅行券15万円分）
市岡哲夫（60）（無職）京都府亀岡市

◆優秀賞（2編：旅行券5万円分）

【全国遊技機商業協同組合連合会優秀賞】
栗山久美子（40）（サンキョー株）

【回胴式遊技機商業協同組合優秀賞】
阿曾沼一司（61）（カルチャースクール講師）東京都練馬区

◆佳作（10編：商品券1万円分）

皆川勝利（49）（会社員）埼玉県朝霞市
南川和之（77）（アルバイト）三重県四日市
桂百合子（62）（主婦）岩手県盛岡市
永重信江（63）（主婦）大阪府東大阪市
大石大輔（27）（株）日光商事
深堀誠太郎（23）（三宝商事株）
臼井貴大（25）（株）プロバ
佐藤千穂（35）（サンキョー株）
浜砂昌也（39）（アーク・フロント株）
樋口公範（40）（アーク・フロント株）

いろいろ教えてくれ、急に祖母のことを思い出して泣き出してしまったこと、そのおじいさんは昔祖母が通っていた店でも働いていたことがあって祖母のことをよく知っており、偶然の巡り合わせに3人で驚いたことなど、パチンコでつながっていた絆が淡々と書かれている。

「家族に言われ応募 びっくり、光栄です」

最終審査委員会では、岡本さんの作品は「しみじみしていてまとももあり、感銘を受けた」として、すんなりと最優秀賞に決まった。最優秀賞受賞の報を聞いて岡本さんは「びっくりしました。光栄です。たまたまテレビのパチンコ専門チャンネルを見ていた家族がコンクールのことを教えてくれて、応募してみました。祖母のことを思い出しながら書いていたから、すらすらと3時間ぐらいで大筋が出来上がり「ました」と語っていた。

優秀賞には、入店規制が甘かった時代、母と一

エッセー部門最優秀賞の
岡本佳苗さん



最優秀賞

祖母との絆、人との絆

岡本佳苗

祖母は厳格な人でした。戦争で夫を失い、女手ひとつで二人の男の子を育て、70歳目前まで現役で働き、贅沢をせず慎ましやかな生活を送っていた祖母。私はそんな祖母を尊敬しながらも、少し煙たく感じていました。

家庭の事情で母が家を出た時から、祖母は仕事帰りに買い物をし、必ず5時半には夕飯を作り、私の帰りを待ってくれる様になりました。高校生だったある日、いつもの時間に帰宅すると、祖母が珍しく帰っていませんでした。暫く待っても戻って来ず、5時半を回り、心配になり探しに出ようとした瞬間、「ごめん遅なつてしもうて……」と、息を切らせながら祖母が帰ってきました。「もー！心配したんやで！」と私が少し怒って聞くと、祖母は「ごめんなあ。実は……」と何か言いかけて口ごもりました。「なんなのよ！心配してたんやで……ごめんなあ。あなたには言わんとこと思ってたんやけど……おばあちゃん、パチンコ好きやねん。仕事帰りに少しだけ寄って、4時の電車に乗って帰ってたんやけど、今日は腕時計が止まっています……お店の人に「いつもの時間過ぎてるけど、大丈夫ですか」って言われ

て気が付いたんよ。なんか恥ずかしくて、今まで隠しててごめんね」と言われ、驚きました。
パチンコ？ 軍艦マーチガンガン、たばこプカプカのやつ？ 休日こつ

そり出かけた親父が帰ってきて、バツ悪そうにチヨコレートくれるやつ？ 兄が先生に見つかって停学になったやつ？ 厳格な祖母がパチンコを打つことに驚きましたが、「そっか。でもパチンコ屋の店員さん親切やね。帰りの時間を心配してくれるなんて」と私が言うと、祖母はとても嬉しそうに、にっこり笑いました。それ以来祖母は、毎日夕食時にパチンコに行った話をしてくれる様になりました。今日は少し負けちゃったよ。今日は好きなのが空いてなかったから、打たずに帰ってきたよ。今日はいっぱい出て楽しかったよ。今日は少し玉が余ったから、隣の人にかけて帰ってきたよ……。パチンコの話をする祖母は、今までの厳しい祖母とは別人の様に無邪気で、私は煙たかった祖母をとて身近に感じる様になりました。父も兄も帰りが遅く、祖母と二人の夕食時。寂しかった時間がパチンコのおかげで、二人きりの楽しい時間になりました。

数年が過ぎ、卒業後の就職が東京に決まり、新生活に胸を膨らませながらも、祖母と過ごす時間が残り少ないので寂しく思っていたある日、不慮の事故で祖母は永遠に帰らなくなりました。父が泣きじゃくる私に「これでよかったです。ばあさんはお前が上京したら『寂しくてたまらんねん。喜ばなあかんのにねえ……』って毎日言ってたし、苦しむ事も無かったんだから……」と言い、私はたまらず、冷たくなった祖母にしがみ付きました。

緒に入ったパチンコ店で床に落ちていた玉1個を拾って打ったら大当たりしてしまった幼稚園児のこの思い出を綴った、神奈川県茅ヶ崎市のアミューズメント業伊藤大佑さん(22)(一般の部)、清掃活動やエコ活動を通じて地域とのつながりを実感した、広島県呉市(株)プローバ、山野和哉さん(25)(業界の部)の2人が選ばれた。

穏やかな作品の中 迫力ある絵に評価

一方、絵手紙で最優秀賞を受けた市岡さんの作品は、パチンコ台から炎が出て、「孤独じゃないここには俺だけの闘いと欲びがある」と叫んでいる。穏やかなイメージの多い絵手紙の中では異色だが、迫力と絵柄が審査委員たちの心を捉えた。市岡さんは受賞の報に「公募ガイドの作品募集を見て応募してみました。あの絵はひらめきで描きました。実は私、絵手紙を習ったことはなく、しかもパチンコはほんの遊び程度しかやらない。のめり込むほどヘビーなファンでもないのに、こんな賞をい

「あいちゃん……!」とつきに出た「あいちゃん」。祖母の名前。以前は煙たかった祖母を、まるで親友の様に思っていたことに気付きました。祖母の死を期に、私は行く事も触る事も無く、祖母の思い出が詰まったパチンコが嫌いになりました。その後数年間は、パチンコと聞くだけで気持ちが沈んでいきました。時間が経つとともに悲しみも薄すれ、十数年経って帰郷する頃にはあまり意識しなくなっていました。故郷での暮らしに慣れ始めたある日、パチンコ店に好きなアニメのポスターが貼ってあるのが目に入りました。兄が以前パチンコを嫌う私に「最近はずパンの台も出たよ。昔とは違う」と言っていたのを思い出し、ぼんやり眺めていると、何故かすつとパチンコ店に吸い込まれるように足が進み、気が付くとその台に座っていました。お店の中はイメージ通り。でも、何をどうして良いのかさっぱり解らない……。初心者なのが何故か恥ずかしく、必死に周りを観察して何とかカードを購入。どうにか一人で打ち始めました。やはりビギナーズラックなのでしょう。1枚購入したカードが無くならない内に当たりを引きました。隣の小母さんが何やら親しげに話し掛けてくれますが、周りの音が大きすぎて良く聞き取れないまま相槌を打っていると、突然横からおじいさんが、初めて出した玉の入った箱に手を掛けました。「私のです! 取らないで……!」と必死に抗議すると、おじいさんと隣の小母さんは大笑い。「なんやあんだ。素人さんかいな。確変やし、もう一回出るから、下に置くんやで」と教えてくれ、おじいさんが店員さんだと分かりました。お二人の

笑い声に緊張の糸が切れ、同時に祖母の事を鮮明に思い出し、突然涙が堰を切る様に溢れ出しました。30歳近い女が人前で大泣き……。驚いたお二人が私を休憩所に連れて行き、泣き出した理由を親身に聞いて下さいました。祖母の話をする時、「あんだ、あいさんの孫か?」とおじいさんが驚いた様に話し出しました。祖母の働いていた町のパチンコ屋に居たこと、二十年来の顔見知りであったこと、ご飯の買い物をして来る様になり、少し心配したこと。そしてあの日、いつもの時間に帰らないのが心配で、お節介かと思いつながら声を掛けたら、とても感謝されたこと。間違いなく、祖母の話。突然来なくなり心配して下さったいました。祖母が亡くなった訳を話すと、おじいさんも小母さんも泣き出し、それにつられ、また私も号泣。「こんな偶然あるんやなあ。いやきつと、あいさんが会わせてくれたんやろなあ」おじいさんの言葉に小母さんも私も、ただ頷くだけでした。現在私はパチンコを打つ人と結婚し、帰って来た母や離れて暮らす兄弟と、休みが合えば家族揃って打ちに行くのを楽しみにしています。時代は流れ、パチンコに係わる暗い話を耳にする事も有りますが、身をもって体験した私は思います。悪い一面も有るのかもしれない。でも、パチンコのお陰で家族や他人との絆が深まる事も必ず有ると。これからも息抜きの場として、そして、人と人が繋がる身近なコミュニティとして、存在してくれる事を心より願っています。

ただいいいでしょか」と恐縮していた。

優秀賞には、華や

かなデザインの東
京都練馬区、カル
チャースクール講
師、阿曾沼一司さ
ん(61)(一般の部)と、
招き猫をあしらってユーモラ
スな埼玉県川口市、サンキョー(株)
栗山久美子さん(40)(業界の部)
の2人が選ばれた。



絵手紙部門最優秀賞の
市岡哲夫さん

今回のテーマは、エッセー、絵
手紙ともに「パチンコ・パチスロ
でつながる想い」「パチンコ・パ
チスロをしたことがない方への招
待状」「大好き! 私のホール、
そして私の街」の3つ。エッセー、
絵手紙とも「業界の部」と「一般
の部」に区分して募集した。応募
数はエッセー407編(一般168、
業界239)、絵手紙256編(一
般113、業界143)、両部門
計663編だった。

同コンクールは日遊協が主催し、
全日遊連、日工組、日電協、全商
協、回胴遊商、自工会が協賛して
いる。

最優秀賞



優秀賞
阿曾沼一司さん



優秀賞
栗山久美子さん